

---

# 自分の思いや考えを伝えようとする児童の育成

## - 国語科の読みを広げる交流活動の工夫を通して -

---

みどり市立大間々北小学校

校長 宇田川 和彦

児童数 299名

学級数 12学級

執筆者 教諭 鎮西 宏子

住所 〒376-0102 みどり市大間々町桐原653

電話 0277-72-1771

URL <http://www.sunfield.ne.jp/~o-kita/index2.htm>

研究所 みどり市教育研究所



---

## 1 はじめに

本校では、昨年度より「基礎・基本の確実な習得」をめざし、10分間の朝学習や朝読書に加え、5校時が始まる前の10分間を「パワーアップタイム」と名づけ、基礎学力の充実に図ってきた。みどり市学力調査においては、全体的に「話す・聞く」の領域で正答率が低く、「理由や根拠を示しながら、考えたことを説明するのが苦手」という児童の実態から、「活用力を身に付ける授業の充実」をめざし、特に校内研修では「表現活動に着目した授業づくり」に取り組んできた。

本年度は、サブテーマを「国語科の読みを広げる交流活動」に絞り込み、単元構成や話し合いなどをどのように工夫すれば、自分の思いや考えを互いに伝え合い、読みを広げることができるようになるのか、研修を深めている。



図1 授業の様子

## 2 研修の概要

### (1) ねらい

国語科の読みを広げる授業において交流活動を工夫することにより、児童一人一人に自分の思いや考えを伝えようとする力が身に付くようにする。

### (2) 研修主題について

「自分の思いや考え」とは、児童が学習課題に対して、得られた資料や情報から、課題解決に向けてもった自分なりの気付きや思考のことをいう。

「伝えようとする」とは、学習課題の解決に向け、自分なりの気付きや思考を互いに話し、さらにそれを聞いて共感したり違いに気付いたりして、互いの考えを深めたり広げたりすることをいう。

### (3) サブテーマについて

「読みを広げる」とは、文章の内容や構成を、自分が既にもっている知識や経験、他の児童の意見などと結び付けて、理解を深めたり想像を広げたりすることをいう。

「交流活動」とは、友だちと互いの思いを分かち合ったり、一人一人の感じ方や考え方の違いに触れたりすることにより、互いの気付きや考えを広げる活動のことをいう。

(4) 全体構想図

次の図2のように、全体構想図を作成した。

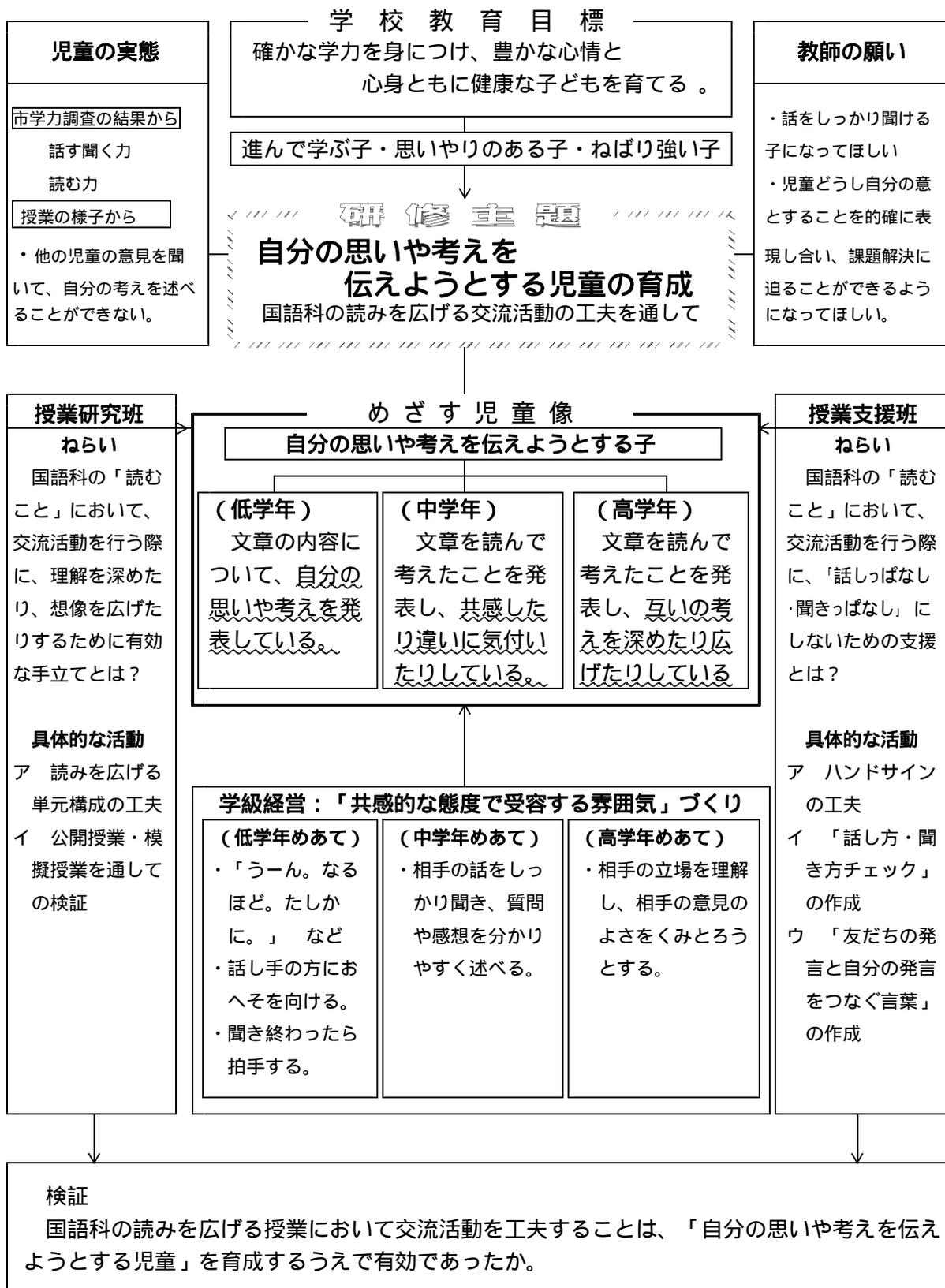


図2 全体構想図

### 3 実践の内容

#### (1) 授業研究班より

##### ア 読みを広げる単元構成の工夫

読みを広げるために、単元全体を通して、理解を深め、想像を広げることができるよう、次のように単元構成を工夫した。

##### 「つかむ過程」

- ・物語文や説明文全体の概要をつかむ。
- ・学習の見通しをもつ。

##### 「深める過程」

- ・叙述を基に、互いの思いや考えを伝え交流することにより、理解を深める。

##### 思いや考えを表現するための手立て

- ・心情曲線
- ・「日記」
- ・音読クイズ

##### 「広げる過程」

- ・文章の内容や構成を、自分の知識や経験をふまえて、友だちと交流することにより、想像を広げる。

##### 思いや考えを表現するための手立て

- ・物語文を書き換える
- ・物語の続き話を書く
- ・登場人物に手紙を書く
- ・自分の生活と関連付けて感想文を書く

#### (ア) 心情曲線



図3 心情曲線を用いた授業

2年「スイミー」の場面ごとの読み取りに

に、心情曲線を活用した。一人一人が考えたスイミーの気持ちの位置（+3うれしい～かなしい-3）に、赤いシールを貼ることにより、自分の考えを整理したり読みを深めたりできるようにした。

あちこちに赤いシールが貼られた。どうしてその位置なのか、付箋に書いたスイミーの気持ちをよりどころに、交流し合った。

##### ～2の場面：児童の会話より～

- C1：「まぐろのヤツ。仕返してやる。」  
 C2：「まぐろは、ミサイルみたいに大きくて速いんだよ。仕返しなんてムリムリ。」  
 C3：「なかが食べられちゃった。どうしよう？」  
 C4：「スイミーだけみんなと違う方へ逃げている。頭がいいんだ。だからきっとなかまを助ける方法を考えつくと思う。」

~~~~ は、叙述や挿し絵で表現されている部分

叙述や挿し絵を基にした発言は大変説得力があった。そして場面ごとのスイミーの気持ちを一つに決め、青い線で結んでいった。

##### ポイント その1

「深める過程」において、自分の思いや考えを表現させるためには、叙述や挿し絵を根拠にした読み取りが重要！！

#### (イ) 「日記」

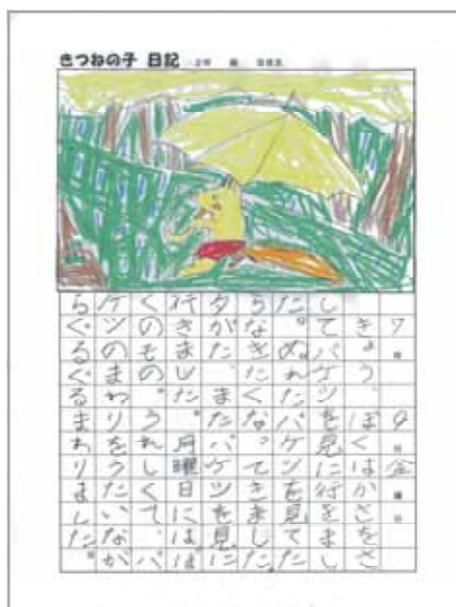


図4 児童による「きつねの子 絵日記」

2年「黄色いバケツ」で、作者の視点で書かれているお話を、児童自身がきつねの子になり、毎日、絵日記を書いていくことにより、一人一人が切実感をもちながら読みを深めることができるようにした。

叙述や挿し絵を基に日記を書き進めることができるよう、最初の一文だけは次のように提示した。

月曜日：「きょう、ぼくは丸木ばしのたもとで、黄色いバケツを見つけました。」  
 火曜日：「きょう、ぼくは何べんも丸木ばしのたもとへ行きました。」  
 水曜日：「きょう、ぼくが黄色いバケツを見てみると、うさぎの子もくまの子も心配してきてくれました。」  
 }  
 日記なので、書き出しは毎回「きょう、ぼくは…」にした。

どんどん書ける子も、なかなか鉛筆が動かない子もいる。書けた児童から前に出てきて発表した。



図5 みんなの前での発表

2の場面：教師・児童の会話より

(聞き終わると、みんなで拍手した。)

T：「お話にはきつねの子がやったことしか書いてないけど、日記にはその時の気持ちを想像してまるで自分のことのように書いているところがいいね。」

C：「書き直してもいいですか？」

T：「どうして書き直したくなったの？」

C：「教科書通り、きつねの子がやったことしか書かなかったから。」

最後に、隣どうして日記を読み合い、よく

書けているところを伝え合うようにした。



図6 隣どうして交流

ポイント その2

早く書けた児童による発表は、書けない児童のモデルとして有効である。皆の前での発表後も『話しっぱなし・聞きっぱなし』で終わりにするのではなく「今日の日記には、いいところが2つあったけど、どこだと思う？」などと投げかけ、一人の児童の発表をクラス全体で共有できるよう工夫する。

限りある時間の中で、全ての児童に発表の機会を与えるには、隣どうしによる交流が有効！！

(ウ) 音読クイズ

一人の児童に、皆の前で音読させた後、「どこに気を付けて読みましたか？」と問うたのでは、教師とその児童の「1：1のやりとり」で終わってしまう。そこで、「どこに気を付けて音読したか当ててください。」とクイズ形式にすれば、二人の児童の音読をクラス全体で共有できるようになる。

ポイント その3

たかが「音読」。されど、工夫一つでクラス全体の共有化も可能！！

イ 模擬授業（H22年8月25日）

2つの班の研修内容が、自分の思いや考えを伝え、読みを広げるのに有効であるかどうか検証するため、教師役・児童役の2つに分かれ模擬授業を行った。次の写真は、その時の様子を写したものである。



図7  
1年  
「くじらぐも」



図8  
4年  
「一つの花」

模擬授業の後、「自分の思いや考えを伝え合う授業に近づくために」をテーマに、成果や課題について協議を行った。

1年「くじらぐも」より( は成果・ は課題 )  
授業の視点

児童にくじらぐもと子どもたちの思いを想像させながら、「音読のめあて」を話し合わせたことは、場面の様子を読み取るのに有効であったか。

グループごとの音読発表後、授業者が各グループのいいところを児童と共に押さえ、どうしてそのように音読したのか、様々な考えを交流させるなかで叙述に即した読み取りに迫ろうとしていた。

低学年の叙述に即した読み取りは、授業者主導でよいのでは?! 低学年の交流は、音読発表後に、自他それぞれが「声を合わせて読んでいた。」のように、いいところを相互評価し、最後に授業者が「このグループの音読はくじらぐもに乗れたでしょうか」と投げ返し、皆で判定する、そのレベルで充分でないか。

4年「一つの花」より( は成果・ は課題 )  
授業の視点

児童一人一人に「コスモス日記」を書かせ互いの交流を図ったことは、父親の思いを読み取るのに有効であったか。

読み取った父親の思いを、日記に反映させることができた。さらに、自分の読書経験などをふまえて、想像を広げて書くこともできた。

読み取りの際の発問が1問1答式になって

いた。時間的な制限はあるが、授業者による揺さぶりや切り返しにより、児童同士の交流が図れるようにしたい。

日記を通して交流する際も、読みを深める手立てとして、よかったところを発表させるだけでなく、どうしていいと思ったのか叙述を基に話し合わせるなど、もう一工夫必要である。

(2) 授業支援班より

ア ハンドサインの工夫

自分の思いや考えを伝え、徐々に読みを広げていくには、自分の立場をはっきりさせると共に、友だちの考えを知ることが大切だと考えた。

そこで、交流の際、自分の考えと「同じ(パー)・つけたし(チョキ)・ちがう(グー)」というそれぞれの「ハンドサイン」を決めて手を挙げることにした。「ハンドサイン」は、授業者が意図的指名をしながら授業を練り上げていくことにも大変有効である。

イ「話し方・聞き方 チェック」の作成

『話しっぱなし・聞きっぱなし』にしない態度面のめあてを作成した。「話し方・聞き方 あいうえお」のように、児童の心に残るよう工夫した。それまでは、授業者による「ちゃんと話してね。しっかり聞こうね。」と曖昧な指示も見られたが、「話し方・聞き方チェック」により、児童には大変分かりやすくなったようだ。

「話し方 あいうえお」

- 「あ」：相手を見ながら
- 「い」：言いたいことが
- 「う」：うまく伝わるよう
- 「え」：(言葉を)選んで
- 「お」：おわりまで、はっきりと

「聞き方 あいうえお」

- 「あ」：相手を見て
- 「い」：言っていることに
- 「う」：うなずきながら
- 「え」：(エールを送って)
- 「お」：おわりまで、しっかりと

## ウ「友だちの発言と自分の発言をつなぐ言葉」の作成

交流の際に、他の児童の意見を聞いて自分の考えを述べるには、次のような「つなぐ言葉」の指導が欠かせないと考えた。それまでは、他の児童の意見を聞いてつぶやくことはあっても、皆の前で発表することに自信をもてない児童が多かった。「つなぐ言葉」は、自分の考えを整理し『話しっぱなし・聞きっぱなし』にしない有効な手がかりとなっていた。

|          | 低学年       | 中学年                        | 高学年                      |
|----------|-----------|----------------------------|--------------------------|
| 自分の意見をもち | (～だと思えます) | (～だと思えます)<br>・なぜかという、～だから。 | (～だと思えます)<br>・その理由は、～だから |
| 同じ       | ・そうそう     | ・そうそう                      | ・そうそう                    |
| ちがう      | ・でも ・だって  | ・でも ・だって                   | ・でも ・だって                 |
| 選ぶ       |           |                            | ・どちらかという                 |
| 推測する     | ・たぶん      | ・たぶん                       | ・たぶん ・もしかすると             |
| たずねる     | ・どうして?    | ・どうして?                     | ・どうして?                   |
| つけたす     |           | ・つけたすと                     | ・つけたすと                   |
| 仮定する     |           |                            | ・もし、～だったら                |
| 例を挙げる    |           | ・たとえば、                     | ・たとえば、                   |
| まとめる     | ・だから、     | ・だから、                      | ・だから、 ・つまり、              |

図8 友だちの発言と自分の発言をつなぐ言葉

### ポイント その4

「ハンドサイン、話し方・聞き方 チェック、つなぐ言葉」が、児童のなかに「話しっぱなし・聞きっぱなし」にしないための手がかりとし定着するよう、学年ごとに担任が児童の実態や発達段階を考慮しながら指導し、系統的な積み上げを図っていく。学年が上がるにつれ、それらに頼らなくても、自由に発言し交流できるようになることをめざす！！

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

交流活動の場面を意図的に設定することにより、学年に応じた話し合い活動や発表・表現活動が充実してきた。

個々、グループの意見や考えが学級全体の場へ反映することにより、文章の読み取りに深まりが見られた、

模擬授業を通して、児童も皆の前で発表するのは「とても楽しいだろうな」ということを実感した。

### (2) 今後の課題

交流場面を授業のどこで作っていくのか、いくつかのパターンが出せるとよいのではないかと。

児童が読みの広がりを実感できるようなノート指導やワークシートの工夫も行っていきたい。

児童が自分の立場をはっきりさせながら、友だちの発言につなげて発言しやすいように、「ハンドサイン」と「友だちの発言と自分の発言をつなぐ言葉」の関連付けを図っていきたい。

## 5 おわりに

本校の研修は、まだ始まったばかりである。「自分の思いや考えを伝えようとする児童の育成」をめざし、これからも検証を重ねながら、さらなる改善をめざし、全職員で知恵を出し合い切磋琢磨していきたい。